【調査報告書】

社会教育における「これまでのつながり」と「新たなつながり」

～社会教育・生涯学習活動における調査～

令和４年２月

伊丹市社会教育委員の会

＜目　次＞

Ⅰ　はじめに　1

Ⅱ　伊丹市社会教育委員の活動　－　行動する社会教育委員　－　2

1　社会教育委員とは
2　行動する社会教育委員
3　伊丹市社会教育委員の会のこれまでの活動
　(1)　提言とフォーラム
　(2)　阪神北地区・兵庫県・全国での活動
4　伊丹市社会教育委員が感じた新型コロナウイルスが社会教育活動に与えた影響
　(1)　公民館活動
　(2)　ＰＴＡ活動
　(3)　自治会活動
　(4)　スポーツ活動
　(5)　学校・家庭・地域の連携・協働活動

Ⅲ　新型コロナウイルスが《社会教育・生涯学習活動》に与えた影響に関するアンケート調査報告　１５

1　調査の目的と方法
　(1)　調査の目的
　(2)　調査の方法
2　調査の項目・結果
　(1)　調査の項目
　(2)　調査の結果
3　調査のまとめ

Ⅳ　調査結果から見えた社会教育・生涯学習活動のこれから　２３

Ⅴ　おわりに　２６

資料　２７

1　令和２・３年度　伊丹市社会教育委員の会審議経過
2　令和２・３年度　伊丹市社会教育委員名簿
3　調査票

アンケート調査結果報告書　別　冊

1　グループ等活動者編
2　講座・イベント等参加者編

Ⅰ　はじめに

これまで、伊丹市社会教育委員の会では、社会教育・生涯学習活動において、人と人、施設と施設、また、人と施設の相互の「つながり」など、伊丹市の社会教育における多様な「つながり」の重要性について提言し、活動してきました。

令和２(2020)年に入り、世界各国で拡がり始めた新型コロナウイルス感染症は、日本にも大きな影響を及ぼし、公共施設の休業、学校園の休業、商業施設の休業・時短営業、デジタル化の加速・・・・など、社会の在り方は大きく変化しました。社会教育・生涯学習活動においても、活動場所の閉鎖、活動内容への制限、マスクの着用、ソーシャルディスタンスを保った活動、消毒作業など、様々な制限や制約を強いられています。

こうした状況の中で、これまで私たちが目指してきた、人と人が出会い、学び合い、また時には食事をしながら、お茶を飲みながら、お酒を飲みながら、交流を深めていくことでの「つながり」を育むことが困難となりました。いつかまた出会い、交流したいという希望を持ちながら、新型コロナウイルス感染症の拡大が収まらない今、社会教育活動を停滞させないためにも、人と人との新たなつながり方を考え、提案することが私たち社会教育委員の使命だと考えています。

そこで、今期の社会教育委員の会では、これまで伊丹市社会教育委員の会が「つながり」について提言してきたこと、私たち自らも社会教育委員として「つながり」を大切にし、活動してきたことを報告するとともに、伊丹市社会教育委員が所属している各団体の活動状況から感じたことを報告します。

また、今期においては、市内社会教育施設を利用している社会教育活動者を対象に、伊丹市社会教育委員の会が作成した「新型コロナウイルスが社会教育・生涯学習活動へ与えた影響に関するアンケート調査」を行いました。コロナ禍での社会教育活動者が抱える課題やおもいを調査・分析することで、私たち社会教育委員が考える今後の社会教育・生涯学習活動の新たな在り方について述べたいと思います。

Ⅱ　伊丹市社会教育委員の活動　－　行動する社会教育委員　－

１　社会教育委員とは

社会教育委員は、「社会教育法」に規定され、社会教育に関する計画の立案や調査研究を行うなどによって、社会教育に関して教育委員会に助言をする役割を果たしています。社会教育委員は、学校教育関係者や社会教育関係者、学識経験者、家庭教育の向上に資する活動を行う方々に委嘱され、地域において社会教育に優れた知見を有する人々の知識を社会教育行政に反映させていくことが期待されています。*1

*1　文部科学省ホームページ　「社会教育委員に関すること」
https://www.mext.go.jp/a_menu/01_l/08052911/003.htm　（令和４年１月情報取得）

２　行動する社会教育委員

社会教育委員は、行政と住民の間に位置付けられ、社会教育に関する住民の意向を社会教育行政や社会教育施設の運営に反映させるためのパイプとしての役割を果たしています。こうした役割を果たすため、社会教育委員は会議で意見を述べるだけではなく、自ら積極的に地域の課題や学習ニーズを把握し、問題提起を行うことで地域を活性化するための「行動する社会教育委員」になることが期待されています。

まず、行動する社会教育委員は「学習者として行動する」ことが求められます。社会教育や生涯学習についての基本的な理解や、諮問されたテーマについての学びとともに、アンケート調査、視察、ヒアリング等、多様な方法を用いながら、地域の課題、住民の多様な学習の実態やニーズ等を把握する必要があります。

また、社会教育委員は「独任制」であり、個人に対し任命されるものであるため、一人ひとりが独自に活動することができ、自らの学びや実践を様々な場を通じて、情報の発信者として「伝えるために行動する」ことが求められています。

社会教育委員は会議等の場で個人の意見や地域の実情をしっかりと伝え、また、地域の多くの人々に社会教育委員としての個人の思いや会議の成果を情報発信していくことにより、これまでの学びや議論が実際に生かされたこととなります。*2

私たち伊丹市社会教育委員一人ひとりが、各活動を通して何を学び、社会教育委員の会議においてどのような議論をしてきたのか、また、それらの活動の成果を行政だけでなく地域の人たちに知ってもらいたいというおもいから、これまで「行動する社会教育委員」として実践に取り組んできました。

*2 参考文献　神部純一「『行動する社会教育委員』は、いかに行動すべきか」全国社会教育委員連合『社教情報』No.82、2020 年、pp.34-37

３　伊丹市社会教育委員の会のこれまでの活動報告

以下では、これまで伊丹市社会教育委員の会が実践してきた活動について、平成 26 年度からの活動で主なものを報告します。

(1)提言・フォーラム

伊丹市社会教育委員の会では、社会教育に関する様々な課題や推進方策について討議し、市教育委員会に社会教育に関する提言を行ってきました。特に、平成 26 年度からは、市民・社会教育施設・行政の“つながり”に重点をおき、討議し提言としてまとめてきました。

H30・R元年度提言　H28・29 年度提言　H26・27 年度提言

伊丹市社会教育委員の会　会議の様子

また、伊丹市社会教育委員の会では、提言書を作成し行政へ提出するだけにとどまらず、提言内容の市民への周知を行ってきました。市内全域で社会教育の推進を図ることを目的に、フォーラムを開催し、講演やワークショップを通じて社会教育活動を委員自ら「伝える」ことを実践してきた活動です。フォーラムでは、会場準備・受付・司会・発表者やパネリストなども社会教育委員が務め、このフォーラムにより、委員同士のつながりも強固となりました。

伊丹市社会教育委員の会　主催　フォーラムの様子

平成 26・27 年度

【提言】　「伊丹の魅力を高める公民館のあり方」
～つながりを生かしたひとづくり～

↑「平成 26・27 年度提言」

今後の公民館の在り方や、社会教育の推進に公民館をどう活用するか、について「つながり」をキーワードに次の５つの視点から提言しました。

●市民の活動を後押しする学びの環境…施設の老朽化による公民館の機能移転においては市の他部局と効果的な連携が図れるよう、また市民の学習ニーズの多様化に対応し、市民の主体的な活動を支援するための場の確保や安全安心な施設を提供する。

●グループ活動の支援と市民の参画…公民館の目指すべき姿となる地域づくり・まちづくりの担い手が育つ「ひとづくり」の場であることを市民や活動者等と共有し、公民館活動の活性化を図る。

●学びの機会の提供…人権・平和・環境・家庭教育・高齢社会など、行政が担わなければならない「社会の要請」に対応する充実した学びの機会を提供し、地域との連携を図りながら公民館での学びを通じた地域コミュニティの活性化に貢献する。

●学校との連携…学校教育と社会教育の連携を図り、公民館登録グループの学習成果を活用したプログラムの実施など、学校とつながる公民館となる。

●組織と管理運営…社会教育行政の組織強化や社会教育施設間の連携により、社会教育行政が安定して推進できる組織体制が必要である。また、行政直営での管理運営のもと、社会教育主事等を活用し、「ひとづくり・まちづくり」を推進する社会教育の拠点となり、市民の力が活かされる公民館運営を行う。

「人・もの・情報」など学びやまちづくりの資源を多く持つ「公民館」を宝の山と表現し、それをいきいき輝かせるための公民館内の連携、市の各部局との連携、そして市民との連携による多くの「つながりを活かしたひとづくり」を進めていくことが大切であるとまとめています。

フォーラム
【伊丹市立中央公民館子どもの育ちを皆で考えよう！
「ひとづくり・まちづくり」が全てをつなぎ、今、教育は伊丹のブランドとなる】

このフォーラムでは、公民館を普段から利用している利用者(公民館の活動グループ、公民館事業推進委員、公連協など)を対象に行い、改めて「公民館ってどんなところ」、「どんな活動ができるところ」を考える企画として、「公民館のキャッチコピーを考える」をテーマに実施しました。そこで出来上がったキャッチコピーは、**「縁 joy！KOMINKAN!　学び・楽しみ・つながりみーつけた！」**で、現在もキャッチコピーとして活用されています。

プログラム

パートⅠ　「元気な会議の進め方」～効果的・効率的にひとりひとりの力を引き出す～

パートⅡ　「伊丹市の魅力を高める公民館のあり方」～つながりを生かしたひとづくり～のＰＲ事業としてワークショップ「みんなで公民館のキャッチコピーを考えよう」

講師　伊丹市社会教育委員　滋賀大学社会連携研究センター長　神部　純一

平成 28・29 年度

【提言】　社会教育ビジョン

↑「平成 28・29 年度提言」

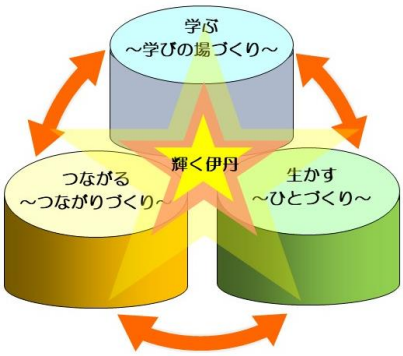
「学んで、つながって、輝く『伊丹』！」を目標に掲げ、社会教育に関わる人々の前向きな「おもい」が、伊丹を支える柱となることを提言しました。

●学　　ぶ……学びは生きがいや自らの楽しみや充実につながります。また、生きていく中での悩みや課題を解決するためにも学びが必要となります。学びを楽しむことが市民一人ひとりの元気の素になります。

●つながる……都市化や核家族化等の進行による地域の連帯意識の希薄化が地域の衰退を招いています。「地域の絆」を取り戻すことが重要な課題であり、社会教育による学びの場にこそ共通の接点を持った者同士の「つながり」が生まれ、学びを通した「つながり」が地域の絆を豊かにします。

●生　か　す……社会教育による学びを通して、一人ひとりが生きがいを持って生きるとともに、学びの成果を様々な人と共有しながら地域づくりに主体的に取り組むことによって地域の活性化につながります。

社会教育施設、行政、市民、地域、企業・NPO・各種団体等が、それぞれの立場、役割に応じて期待する取り組みを提示し、市民一人ひとりの笑顔をきらきらと輝かせる活力ある伊丹を実現するのが「社会教育ビジョン」であるとまとめています。



フォーラム
【社会教育フォーラム　ー学んで つながって 輝く伊丹ー】

提言「社会教育ビジョン」に込めた「学んで、つながって、輝く『伊丹』」の実現に向けた熱いおもいを市民や社会教育施設の利用者や阪神間の社会教育委員へ直接伝える機会としました。

参加者アンケートでは、80%が「満足」と回答いただいており「社会教育は楽しむものだと知った」「それぞれの方のおもいが感じられ、どの市にもまちづくりを考えるいい人がいるんだと感じた」「企画も内容もよく練られていた」などの感想もいただきました。フォーラムでは、「伝える」ことにより、伝えられた市民がどのように感じたのかを知ることもでき、今後の活動への活力となりました。

プログラム

①趣旨説明　「社会教育ビジョンができるまで」　　伊丹市社会教育委員の会　会長　板野　彰彦

②基調講演　「社会教育はひとづくり・まちづくり」

伊丹市社会教育委員　滋賀大学　社会連携研究センター　専任教授　神部　純一

③パネルディスカッション「社会教育が輝く伊丹を創る」

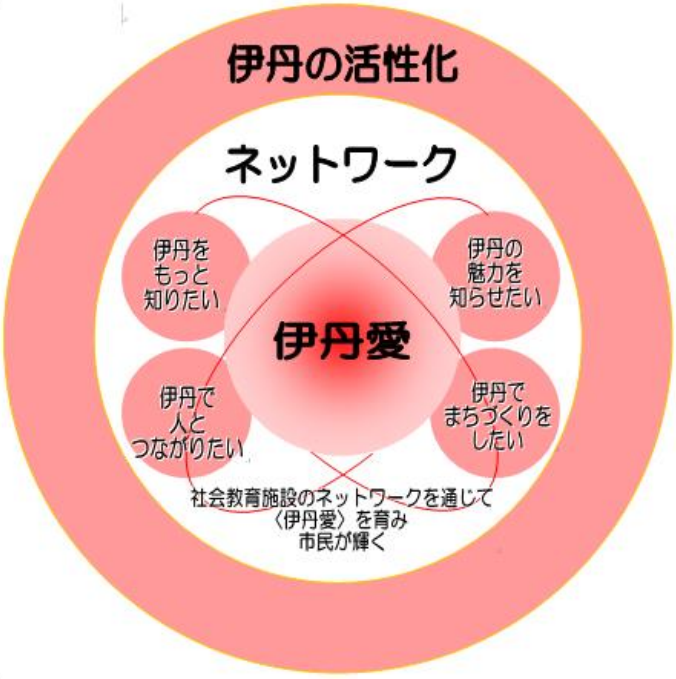
【提言】　ALL 伊丹で〈伊丹愛〉を育む学びの場づくり
～社会教育施設のネットワークの構築をめざして～

↑「平成 30・令和元年度提言」

前期提言「社会教育ビジョン」に込められたおもいである「輝く『伊丹』」を実現する具体的取組として「社会教育施設の連携」に着目し、社会教育施設の職員や、社会教育活動者である市民が人やまちに抱くおもいは〈伊丹愛〉＝伊丹の人を愛し伊丹のまちを愛する心とし、伊丹愛を核として社会教育施設のネットワークにより、より魅力的な事業推進を図ることについて提言しました。

〈伊丹愛〉は、人と人、施設と施設、そして人と施設をつなぐ社会教育施設のネットワークを強固なものにすることで、人々の心の中で育まれていきます。

「Ｉ(私)に始まりＩ(愛)へと続く　ＩＴＡＭＩ」
伊丹の人を愛し　伊丹のまちを愛する心
〈 伊 丹 愛 〉



また、伊丹愛を育むためのネットワークとして、「人的ネットワーク」と「情報ネットワーク」の両方に着目しました。

まず、「人的ネットワーク」では、社会教育施設所管課や社会教育施設の職員により構成され、情報交換・共有を行いながら、〈伊丹愛〉を育む事業を企画・実行する「伊丹愛ネットワーク会議」の設置を提案しました。その会議において、職員の資質向上を図り、さらに市民活動等との連携を通して全市的なものに発展させることで、市民のより幅広く深い学びの場を提供することを目指すものとしました。

また、「情報ネットワーク」として、ホームページや SNS を活用し、社会教育施設の「見える化」を図ることで、多くの情報をより効果的に提供し、社会教育に関する学びを深める機会を創出できることも提案しました。

これらの提案により、伊丹市教育委員会事務局生涯学習部内に「伊丹愛ネットワーク会議」が設置されることとなり、社会教育課・スポーツ振興課・中央公民館・図書館本館ことば蔵・博物館・ラスタホール・きららホールの担当職員により構成されました。また、伊丹愛ネットワーク会議において、伊丹市制施行 80 周年事業や社会教育施設を巡るクイズラリー等の社会教育事業を企画・実行し、〈伊丹愛〉を育む事業が展開されました。

フォーラム
【伊丹愛フォーラム　伊丹のえーとこ、知っとった！？】

提言「ALL 伊丹で〈伊丹愛〉を育む学びの場づくり～社会教育施設のネットワークの構築に向けて～」の作成までの過程を参加者と共有しながら、市民の心にある〈伊丹愛〉を育み、伊丹の社会教育活動のさらなる活性化を目的とし実施しました。

市内高校生による地域社会調査発表や、伊丹市の魅力についての講演ののち、グループワークで「伊丹のえーとこ」について話し合い、グループで出てきた〈伊丹愛〉を「どう伝える？」と情報発信の方法について話し合いました。

市立伊丹高等学校書道部の協力

フォーラム会場の様子

県立北高生による地域社会調査発表

プログラム

① 地域社会調査発表　１「住みたい街ランキング１位へ」
　　２「眠れる言葉文化都市」
　　発表者　兵庫県立伊丹北高等学校　１年生
　　総合学科「産業社会と人間：地域社会調査」

② グループワーク(みんなで話そう①)
　　「あなたにとって伊丹のえーとこ、どこ？」

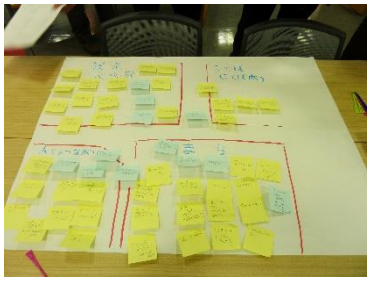
③ 講　演　　「伊丹のえーとこ、ここです！」
　　講師　伊丹市立博物館長　中畔　明日香氏

参加者のアンケートでは、満足・やや満足が約８０％あり、「伊丹についてあまり知識がなかったが、グループワークで伊丹の良いところをたくさん知ることができた」「色々な人達と話し合ったことでどうすれば伊丹をよくできるかなど考えることができ楽しかったし、伊丹愛が深まった」など、好評価をいただきました。

自分たちのまちのことを知るだけでなく、各自の意見を話し合うグループワークにより参加者同士の交流ができたことについて、「世代の違う方々と伊丹について話したことが楽しかった」「伊丹の魅力をみんなで語り合うことで、仲間意識をもつことができた」などの感想が寄せられました。

フォーラムにより、私たち社会教育委員自らが市民へ歩み寄り、社会教育を推進していく場を作っていくことの大切さを感じています。

グループワークの様子


まとめた意見をグループ発表

伊丹愛ネットワーク会議×都市ブランド観光戦略課(市長部局)とのコラボ企画
伊丹市制施行８０周年事業「伊丹の好きなところ大募集！」

市制施行８０周年(令和２年度)の記念事業として、市内の８つの社会教育施設において、施設利用者に「伊丹の好きなところ」をハート型の紙に記入しボードに貼り付けてもらいました。

伊丹にゆかりの深い著名人の方である伊丹大使の「伊丹の好きなところ」もパネルで掲示し令和２年８月の１ヵ月間で、1,007 枚の伊丹愛が集まりました。

伊丹市内にある昆陽池公園やスカイパークなどの他に、社会教育施設も多数選ばれており、社会教育施設への伊丹愛を感じることができました。

伊丹愛ネットワーク会議　企画
伊丹愛親子でクイズラリー

伊丹市市制記念日である１１月１０日を含む１か月間を実施期間として、「社会教育施設を『知る』ことから〈伊丹愛〉を育む」ことを目的に、市内社会教育施設の担当者が施設設立当時の伊丹市広報を題材に考えた、施設にまつわるクイズに解答しながら施設を回るクイズラリーを実施しました。クイズラリーの参加者は親子８３組で、９つの社会教育施設を巡り、全施設のクイズに正解した親子は、６９組でした。参加者からは、「今まで行ったことのない施設に行くことができた。また行ってみたい！」「伊丹市内にたくさんの施設があることを知った」などの感想が寄せられました。

クイズラリー開催中には、より多くの方が〈伊丹愛〉を育む機会となるように、市制施行８０周年事業「伊丹の好きなところ大募集で集まった〈伊丹愛〉の記念冊子を配布しました。

また、令和３年度においても引き続きクイズラリーが実施され、多くの市民が社会教育施設へ訪れました。

令和２年度伊丹愛親子でクイズラリーの様子

⑵阪神北地区・兵庫県・全国での活動

伊丹市社会教育委員の会は、阪神北地区社会教育委員協議会および、兵庫県社会教育委員協議会に所属しており、他市町の社会教育委員とも社会教育に関する情報交換や交流、実践の視察などを重ねています。

平成 30 年６月開催のフォーラム【学んでつながって輝く伊丹】では、阪神北地区社会教育委員協議会の総会と同日開催したことにより、他市町の社会教育委員にも多数参加いただくことができました。

この活動経験をベースに、同年 11 月開催の兵庫県社会教育研究大会において阪神北地区が担当した分科会「学びを通じた地域づくりについて～学校・家庭・地域の連携・協働～」は、高い評価を得ました。また、スタッフ(阪神北地区各市町の社会教育委員)全員が同じテーブルで昼食を取り、分科会終了後には打ち上げを行うなど、他市町の社会教育委員との「つながり」を実践したことも、大会事務局より注目されました。

さらに翌年度(令和元年)10 月の第 61 回全国社会教育研究大会(兵庫大会)において分科会「子どもたちの成長を支える学校・地域の連携協働の実践」を阪神北地区が担当し、大きな成功を収めました。

伊丹市社会教育委員の会は、社会教育委員として取り組む活動をきっかけに、阪神北地区内や県内、全国での活動を積極的・活発に行うことで、他市町・他府県とともに実践を通した交流を図り、行動する社会教育委員を体現しています。

兵庫県社会教育研究大会(平成 30 年 11 月)

分科会の様子

スタッフ全員での昼食

第 61 回全国社会教育研究大会(兵庫大会)(令和元年 10 月)

分科会の様子

阪神北地区スタッフ

４　伊丹市社会教育委員が感じた新型コロナウイルスが社会教育活動に与えた影響

伊丹市社会教育委員は、個人として社会教育活動を行うのはもちろん、それぞれが所属する団体における社会教育活動を行っています。そして、新型コロナウイルス感染症は、これらの活動に大きな影響を与えました。

そのなかでも、５つの活動について、各活動に新型コロナウイルス感染拡大前後でどのような影響を受け、活動の変化が起きたのか、また今後の活動をどう推進していくかなど、各委員が感じた団体活動状況報告をまとめました。

（1）　公民館活動

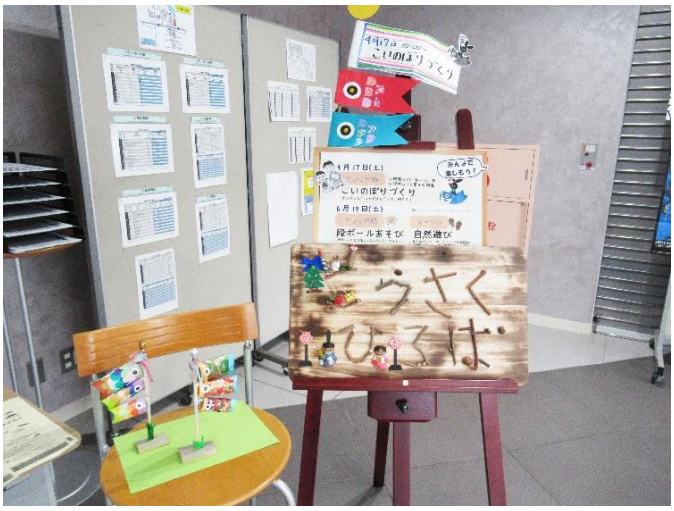
伊丹市社会教育委員　青木　昌子
（所属）公民館事業推進委員会　会長

新型コロナウイルス感染拡大により、公民館が休館となり、それに伴い、公民館事業推進委員会の全体会及び部会が中止となりました。

委員の方たちから活動に関する思いを直接聞く機会はなくなりましたが、推進委員会は止まることなく運営しなくてはなりません。

早速、次年度の市民講座の企画テーマとなる内容を考えて回答するようにと書面が届きました。この回答の内容をジャンル分けした結果「コロナ以降の新しい生活様式」が一番関心が高く、今後コロナを起因とした課題を各部会で協議し、取り組むこととなりました。

子ども事業については、年間事業予定が前年度に決定していて問題はありませんが、事業や部会の実施はその時点の状況に応じての判断になります。



このような状況の中で「こうさく広場、こいのぼりづくり」を開催することができました。感染対策を整え、三密を避けるため、入室は 30 分以内として制作することとしました。

また、カエボン 100 回記念として、図書館本館こどば蔵と公民館を結び、オンライン講座が開催されました。

今回のコロナ禍において、私自身も初めてオンラインでつながるという経験をすることとなりました。一方的に配信された動画を見るという方法もありますが、双方向でやりとりするオンラインの活用により、遠く離れた場所と自分をリアルタイムでつなぐ方法として、楽しみを見出すこともできました。

新たなつながりとして、デジタル活用も推進していく必要性をこの講座を通して感じました。つながり方の一つの方法として、オンラインが活用できるということを多くの方にも経験してほしいと感じています。

(2)　PTA 活動

伊丹市社会教育委員　　寺田　晃
(所属)伊丹市 PTA 連合会　事務局長

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、PTA の活動は大きく変化した。

役員、委員決め等も保護者が集まれない事により、決められなかったり、学校から立ち入りの制限を受けたり、配布物の配布、回収方法等様々な問題が発生した。今までは当たり前の様に出来ていたことが、出来なくなり変更や中止する選択をせまられた。

そして一番の問題は、人と人のつながりが希薄になってしまう事だと言える。保護者同士のつながりは勿論、地域と学校、先生と保護者等、今までは定期的に会う事によってつながりが保てていたのに、会えない事により文章等で誤解を与えたり、集まれない事により間違った伝わり方をしたり、様々な行き違いが発生した。

今ではネットワーク会議等リモートで行われているが、今までできていたことすべてが行えるわけでは無い。それは、リモートにおいては、１対１のやりとりであっても長時間の会話は嫌がる方もいるからである。

現状では、コロナの収束を待ちながら、我々も日々変化しながら出来る事をするしかないだろう。

また、今後の課題ともなる地域とのつながりにおいては、やはり足を運ぶしかないだろう。

伊丹市では、小中学生に対して一人一台タブレットを配布しているのだからこれを使わない手は無い。すぐには無理だろうが、タブレットで PTA 便りやアンケートの集配を出来ないか？日頃の出欠確認を出来ないか？先生とリモート会話を出来ないか？等、タブレットにより解決出来る事も多数あると考える。

最後にコロナ禍において変わってしまい、元には戻せない事も少なからず出てくるだろうが、子ども達、学校のために、保護者一人ひとりが今出来る事を考えながら実行に移して行かないといけないと切に思う。

写真は、コロナ感染拡大前の PTA 活動の様子です。PTA と地域の方々、子ども達が集まり、しめ縄づくりをしました。地域の方々にしめ縄の作り方を教えてもらい、各家庭に飾りました。このように地域と連携した PTA 活動が「人と人をつなぐ」と考えており、今後も大切にしていきたいです。

(3)　自治会活動

伊丹市社会教育委員　市川　伊久雄
(所属)伊丹市自治会連合会　副会長

自治会活動の主な目的の１つが「人と人とのつながりを深める」ことにあると考えています。そのような中で今回のコロナ禍は、自治会活動にとって大きな変化をもたらしました。夏祭り、バスツアー、餅つき大会など、これまで行なってきた多くの行事がことごとく中止に追い込まれたことにより「人と人のつながり」が断ち切られたり、更なるつながりができなくなったのです。特に各自治会で行なっている餅つき大会は、究極の「人と人とのつながりを深める」行事です。顔は知っているけれど、日頃から挨拶はするけれど・・・こういった人たちが互いに名前や住んでいる所を知ることでつながりが生まれ、日頃の地域活動の基礎となるばかりでなく、災害時などいざとなった時の大きな力になります。

自治会連合会で行なった各自治会へのアンケートでは、密になる事や飛沫を避けるため餅つき大会はお餅を配るだけにしたとか、バスツアーではバスを使わず公共交通機関を利用し近場を巡るなどの工夫をして実施した自治会もありましたが、ほとんどの自治会では多くの行事を断念せざるをえない状況でした。

私の自治会も同様で、これまで行なってきた全ての行事が中止となりました。そのような中、役員会で何か「人と人とのつながりを深める」行事が出来ないかと検討した結果、屋外で換気の心配もなく、小グループで密になる事を防ぎ、更に参加者が同時に集まる時間を最短にすることが出来る「自治会探検ゲーム」を行なうこととなりました。

小グループで自治会内のチェックポイントを巡り、クイズに答えるという子ども達向けのイベントでしたが、同行した保護者の方々のつながりに結び付きました。

一方、自治会連合会では研修会にオンラインを取り入れ、デジタル化に向けた取組が進んでいます。今後、各小学校区のブロック長にタブレットが貸与され、将来は会議もオンラインでできる環境を整えていく予定です。

1　資料のペーパーレス化

・会議資料を事前配布可能。
　データで送付する(郵送不要)。
・会議当日は手元のタブレットで
　資料を確認しながら進行。
・会議資料を保存しておくための
　スペースが不要。

2　SNS 等を通じた迅速な対応

・時間、場所に縛られずに連絡を
　取ることができる。
・写真、動画を送ることにより
　現況確認が可能。
・相手が確認したかどうかわかる。

3　オンライン会議の開催

・会議場所を確保する必要がない。
　(三密対策としても有効)
・移動時間、コストの解消。
※すべての会議をオンラインで行う
　わけではなく、案件によって使い
　分けることを想定。

このコロナ禍において、自治会活動は社会教育の基本となる「人と人とのつながりを深める」のに最も身近な活動であることを再認識しました。

（4） スポーツ活動

伊丹市社会教育委員　河本　美智子
(所属)伊丹市スポーツ推進委員会　副会長

「いつでも、どこでも、だれでも」がスポーツできるようにと、スポーツ推進委員は、各校区に２名ずつ配置され、スポーツクラブとの連携をはかり、調整をしながら、多くの人々にスポーツの楽しさ・爽快感を味わってもらい、楽しいから続けられて、続けられるから仲間ができ、笑顔が少しずつ広がっていきます。そんなお手伝いに、スポーツ推進委員は携わっています。

しかし、令和２年の第１回目の緊急事態宣言では、学校が休校となり、スポーツクラブの拠点である校庭・体育館が使用できなくなりました。「三密」が叫ばれ、不要不急の外出もできなくなり、スポーツどころではなくなり、じーっと我慢をしていました。

緊急事態宣言解除後は、小・中学生は、マスク着用で、午前午後と２部に分かれて、登校が始まりました。

学校施設開放委員会では、学校管理者との協議で、三密の回避・手指のアルコール消毒・体育館の換気・終了後には使った器具の消毒・床掃除・トイレ掃除の徹底が言われ、各クラブに伝えられました。体育館は、室内なので人数制限ができ、体育館の中は、50 人未満となりました。

スポーツ推進委員は、使用しているクラブがルールをきちんと守って活動が行われているか、巡回をしました。(コロナ患者が出ることは、折角の学校管理者の責任で使用許可されているものが、無になります。そして、子ども達もまた登校できなくなってしまいます。)

巡回時に、気づいたことは、

1)消毒に関しては、

①入口に消毒液を置き、マスクやフェイスシールドをできる限り着用している。

②受付で名前・健康チェックをしていた。

③床掃除のモップをこまめに消毒している。

④消毒用具が、高価かつ大量に使用する為、配布をしてほしい

・・・(のちにスポーツ振興課より配布あり)

2)体調に関しては、

①マスク着用での活動は、熱中症にも気を付けてと指導した。

・・・(水分補給を頻繁に)

②利用者からは、こども達へのストレスを心配されていた。

3)活動に関しては、

①三密に気を付けているが、盛り上がると忘れがちになる。

②こども達で声を掛け合い注意して使用していた。

③久しぶりの活動で、仲間達と会え、活動ができ、楽しかった。嬉しかった。

市内の施設で、マスク着用や手指消毒、順番待ちでは椅子を用意してソーシャルディスタンスを取りながら、スポーツ(囲碁ボール)を楽しむ様子です。

一方、スポーツ推進委員会では、体育館の使用人数制限もあり、三密を避けるためにできるスポーツをピックアップし、ルールを一部変更したり等、再度協議し、「まちづくり出前講座」への要請も前向きに考えている。

コロナ禍の中、スポーツ推進委員は、みずからスポーツ活動を行うだけでなく、他の人達に笑顔で声をかけたり、サポートしたり、「支える」ことが大切になってきていると思います。

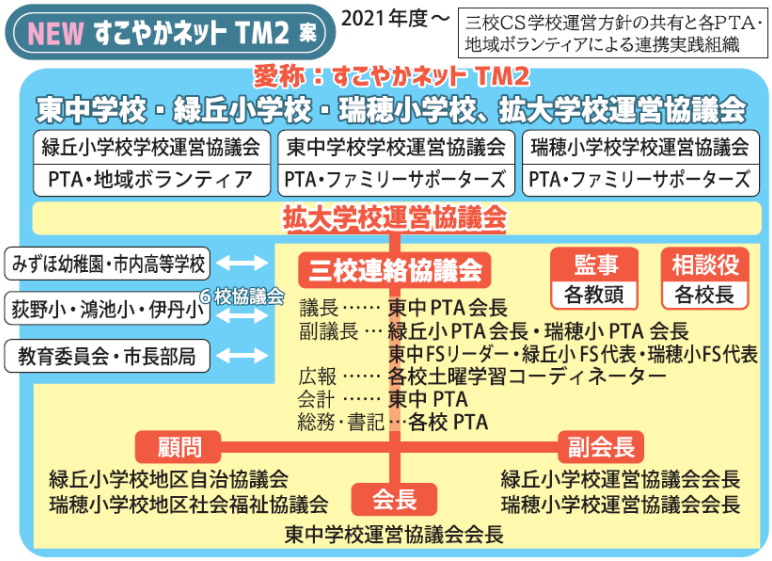
(5)　学校・家庭・地域の連携・協働活動

伊丹市社会教育委員　板野　彰彦
元家庭教育推進連携支援委員

２０２０年４月７日に兵庫・大阪、全国７都府県に緊急事態宣言が出されて以後、私たちの生活スタイルは一変し、学校・家庭・地域も大きな影響を受けている。

私の所属する団体でコロナ禍における対応が早かったのは経営者の集まる団体であった。理事会・例会・勉強会はすぐに Zoom を使ってのリモート対応を実施し、夏頃までにはリモートが当たり前になり、コロナ以前のように自宅や会社から会場まで移動することなく参加ができることから、会の出席率も高く、対面以上の効果を上げている。コロナ禍においても成果を出したのは、危機対応に前向きな共通認識(会風)や、ＩＴ基盤が組織に存在していたこと、そして何よりも組織を牽引するトップのリーダーシップにあったと考える。この組織におけるあり方や、トップの動きが団体によって大きな差を生むと感じている。では、学校・家庭・地域のコロナ禍における連携協働活動はどうであったか。

まず、学校運営協議会であるが、市内の学校でも各学期とも開催したのは少数ではなかったかと思う。私が会長を務める中学校では会を開催できたのは２学期からであった。学校も非常に大変であり、感染防止という立場からも会を開催できなかったのではあるが、学校運営協議会が学校運営の意思決定機関であるならば、緊急時には会を開催し学校運営における共通認識を持つ必要がある。これを開催できなかったのは学校運営協議会が学校運営の意思決定機関でないことを物語っており、それを見逃している会長のリーダーシップの欠如に他ならないと反省するばかりである。今期は、今後の緊急事態に備え構成員のＩＴ基盤を確認し、学校運営協議会もリモート運営できるように整備する。危機状況にあっても即座に動ける組織に変革させる。



次に小学校の土曜学習のコーディネーターとしてだが、土曜学習は開催条件が各学校の運用に左右されるので、学校やＰＴＡ(家庭)とのコミュニケーションが非常に重要であった。学校・ＰＴＡとコンセンサスを得る中で最大限できる何かを模索し、リモートを先行している隣の小学校の土曜学習と連携、「リモートダンス教室」の共催に至った。ダンス教室は前年度までは非常に人気であったが、「密」の観点から対面での実施を学校・ＰＴＡからは止められていたものである。家庭・地域の考え方は幅広く、共通認識を持つこと、コンセンサスを得ながら進める必要がある。また、「リモートダンス教室」の実施に当たってはこれまでのすこやかネット事業での連携を生かしており、新年度もこの連携を生かし、リモートでの土曜学習プログラムを実施する。今後は、学校運営協議会・土曜学習・学校支援地域本部事業・ＳＣ２１を旧のすこやかネット事業をベースに再構築し、小中幼高そして地域、行政との連携協働活動を深耕させ、中学校区での拡大学校運営協議会を機能させていく。

Ⅲ　新型コロナウイルスが《社会教育・生涯学習活動》に与えた影響に関するアンケート調査報告

１　調査の目的と方法

(１)調査の目的

新型コロナウイルスが市内の社会教育施設(中央公民館、ラスタホール、きららホール)を利用する市民の活動に与えた影響や変化の実態を把握し、今後の活動支援の参考とするため実施しました。対象者は「グループ等活動者」「講座・イベント等参加者」としました。

(２)調査の方法

グループ等活動者編

中央公民館
調査対象　調査期間中のグループ活動者
調査票配布数　250
標本数　212(回収率　212/250　84.8%)
調査方法　対象者本人記入方式の調査票調査
施設利用時に対象者へ配布・回収
調査期間　令和３年５月１２日～６月３０日

ラスタホール(生涯学習センター)
調査対象　調査期間中のグループ活動者
調査票配布数　180
標本数　99(回収率　99/180　55.0%)
調査方法　対象者本人記入方式の調査票調査
施設利用時に対象者へ配布・回収
調査期間　令和３年５月１２日～６月３０日

きららホール(北部学習センター)
調査対象　調査期間中のグループ活動者
調査票配布数　186
標本数　141(回収率　141/186　75.8%)
調査方法　対象者本人記入方式の調査票調査
施設利用時に対象者へ配布・回収
調査期間　令和３年５月１２日～６月３０日

講座・イベント等参加者編

中央公民館
調査対象　調査期間中の講座・イベント参加者
調査票配布数　160
標本数　136(回収率　136/160　85.0%)
調査方法　対象者本人記入方式の調査票調査
施設利用時に対象者へ配布・回収
調査期間　令和３年６月２５日～９月１５日

ラスタホール(生涯学習センター)
調査対象　調査期間中の講座・イベント参加者
調査票配布数　150
標本数　136(回収率　136/150　90.7%)
調査方法　対象者本人記入方式の調査票調査
施設利用時に対象者へ配布・回収
調査期間　令和３年７月１日～８月３０日

きららホール(北部学習センター)
調査対象　調査期間中の講座・イベント参加者
調査票配布数　129
標本数　118(回収率　118/129　91.5%)
調査方法　対象者本人記入方式の調査票調査
施設利用時に対象者へ配布・回収
調査期間　令和３年６月２６日～８月６日

２　調査の項目・結果

⑴調査の項目

１．回答者の属性

２．新型コロナウイルス感染拡大前後の活動・交流状況

３．オンラインミーティングツール・YouTube・SNS の活用

⑵調査の結果

各アンケート調査票・調査報告は、伊丹市ホームページに掲載しています。

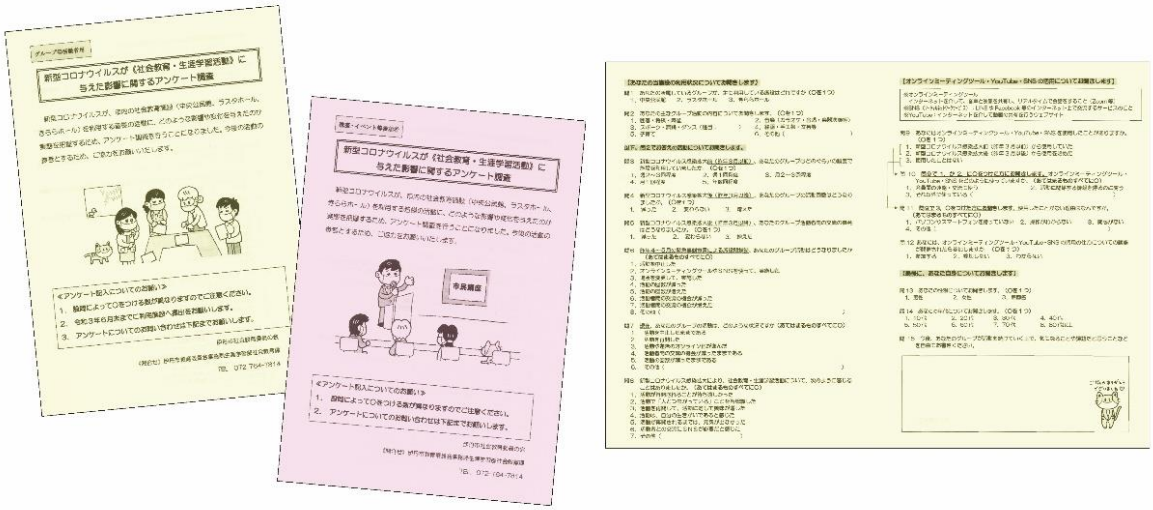
アンケート調査票

新型コロナウイルスが《社会教育・生涯学習活動》に与えた影響に関するアンケート調査

〇グループ等活動者編　　〇講座・イベント等参加者編

アンケート調査結果報告書

〇グループ等活動者編　　〇講座・イベント等参加者編



３　調査のまとめ

グループ等活動者編

１．　新型コロナウイルス感染拡大前後の活動・交流の状況

（1）新型コロナウイルス感染拡大前の活動頻度

新型コロナウイルス感染拡大前の活動頻度は、「月２～３回程度」と回答した人の率が 44.9%でもっとも高く、次いで「週 1 回程度(38.7%)」となっていた。この２つで全体の８割以上を占めていた。

属性別にみると、**「週１回以上」活動している人の率は、「男性(54.2%)」、「70 代(53.2%)」の人、「ラスタホール(52.5%)」と「きららホール(50.0%)」利用者で高い。**

（2）新型コロナウイルス感染拡大後の活動・交流状況

新型コロナウイルス感染拡大後の活動回数が、感染拡大前よりも「減った」と回答した人の率は 73.1%であり、ほぼ４人のうち３人が活動回数が「減った」と回答していた。　属性別にみると、**活動回数が「減った」と回答している人の率は、「60 代以下(50 代以下：80.0%、60 代：79.1%)」の人と「中央公民館(80.0%)」利用者で高い。**

また、新型コロナウイルス感染拡大後の交流の機会が、感染拡大前よりも「減った」と回答した人の率は 77.9%であり、ほぼ８割の人が交流の機会が「減った」と回答していた。

属性別にみると、**交流の機会が「減った」と回答している人の率は、「70 代以下(50 代以下：79.4%、60 代：82.1%、70 代：79.8%)」の人と「中央公民館(81.1%)」利用者で高い。**

２．　緊急事態宣言による施設閉館時の活動状況と現在の活動状況

（1）緊急事態宣言による施設閉館時の活動状況

緊急事態宣言による施設閉館時の活動状況は、「活動を中止した」グループに所属する人の率が 64.5%でもっとも高く、次いで「活動の回数が減った(25.9%)」となっていた。　属性別にみると、**「活動を中止した」グループに所属する人の率は、「女性(67.5%)」、「60 代(70.9%)」の人、そして「中央公民館(75.6%)」利用者で高い。**

一方、**「活動の回数が減った」グループに所属する人の率は、「80 代以上(31.0%)」人と「きららホール(38.2%)」利用者で高い。**

また、**「オンラインミーティングツールや SNS を使って、実施した」グループに所属する人の率は「50 代以下(17.1%)」の人、「場所を変更して実施した」グループに所属する人の率は「ラスタホール(32.3%)」利用者で高くなっている。**

（2）現在の活動状況

現在の活動状況は、「活動を再開した」グループに所属する人の率が 84.7%でもっとも高く、８割を超えるグループが活動を再開していた。ただし、この調査の対象が施設を訪れた人である(活動が再開されたから施設を訪れているケースが多い)ことを考えると、実際の数字はこれよりも低い可能性が高い。

３．　新型コロナ感染拡大の中での活動者の思い

新型コロナ感染拡大の中、活動者が何を考えていたのかについて尋ねてみたところ、「活動が再開されることが待ち遠しかった」と回答した人の率が 70.9%でもっとも高く、次いで「活動で『人とつながっている』ことを再認識した(54.7%)」、「活動は、自分の生きがいであると感じた(30.0%)」の順となっていた。

属性別にみると、**「活動が再開されることが待ち遠しかった」と回答した人の率は、「男性(78.1%)」、「60 代(75.6%)」の人、「ラスタホール(76.8%)」と「きららホール(74.8%)」利用者で高い。**

また**「活動で『人とつながっている』ことを再認識した」と回答した人の率は、**「女性(59.3%)」、「60 代以下(50 代以下：68.6%、60 代：60.5%)」の人、そして「中央公民館(58.0%)」と「ラスタホール(58.6%)」利用者で高く、**特に、「50 代以下(68.6%)」の人では 7 割近い。**

そして**「活動は、自分の生きがいであると感じた」と回答した人の率は、**「女性(33.6%)」、「80 代以上(45.1%)」の人、そして「きららホール(35.9%)」利用者で高く、**特に、「80 代以上(45.1%)」の人では、4 割を超えている。**

４．オンラインミーティングツール・YouTube・SNS の活用

(1)オンラインミーティングツール・YouTube・SNS の使用状況

オンラインミーティングツール・YouTube・SNS の使用状況は、「新型コロナウイルス感染拡大前から使用していた」と回答した人の率が 20.6%、「新型コロナウイルス感染拡大後から使用を始めた」と回答した人の率が 11.5%となっており、現在、「使用している」人の率は 32.1%であった。

属性別にみると、**現在「使用してる」と回答した人の率は、「50 代以下(68.6%)」の人で高い。**

一方、**「使用したことはない」と回答した人の率は、**「70 代以上(70 代：72.4%、80 代以上：79.7%)」と「きららホール(71.2%)」利用者で高く、**特に「80 代以上(79.7%)」の人では、8 割近い。**

(2)オンラインミーティングツール・YouTube・SNS の使用目的

オンラインミーティングツール・YouTube・SNS の使用目的は、「会員間の連絡・交流に使う」と回答した人の率が、51.7%でもっとも高く、次いで「それ以外で使っている(39.2%)」となっていた。

属性別にみると、**「会員間の連絡・交流に使う」と回答した人の率は「70 代以下(50 代以下：54.2%、60 代：56.3%、70 代：56.0%)」の人と「きららホール(61.8%)」利用者で高い。**

一方、**「それ以外で使っている」と回答した人の率は、「60 代以下(50 代以下：45.8%、60 代：53.1%)」の人と「中央公民館(47.3%)」利用者で高い。**

(3)オンラインミーティングツール・YouTube・SNS を使用しない理由

オンラインミーティングツール・YouTube・SNS を使用しない理由は、「関心がない」と回答した人の率が 39.5%でもっとも高く、次いで「操作がわからない(36.0%)」となっていた。

属性別にみると、**「関心がない」と回答した人の率は、「男性(47.7%)」、「50 代以下(54.5%)」の人、そして「中央公民館(47.7%)」利用者で高く、「操作がわからない」と回答した人の率は、「50**

代以下(45.5%)」の人で高い。

また、**「パソコンやスマートフォンを持っていない」と回答した人の率は、「80 代以上(43.1%)」の人で高くなっている。**

5．オンラインミーティングツール・YouTube・SNS を使用するための講座への参加

(1)講座への参加意思

オンラインミーティングツール・YouTube・SNS を使用するための講座への参加の有無については、「参加する」と回答した人の率が 21.9%であったのに対して、「参加しない」と回答した人の率は 39.3%となっていた。

属性別にみると、**「参加する」と回答した人の率は、**「60 代(25.3%)」と「80 代以上(27.3%)」の人、「ラスタホール(27.1%)」利用者、「オンラインミーティングツール・YouTube・SNS を使用している(拡大前から：33.3%、拡大後から：40.5%)」人で高く、**特に、オンラインミーティングツール・YouTube・SNS を「拡大後から使用し始めた(40.5%)」人では、4 割を超えている。**

一方、「参加しない」と回答した人の率は、「男性(49.0%)」、「80 代以上(58.2%)」の人、「ラスタホール(48.2%)」利用者、「オンラインミーティングツール・YouTube・SNS を使用したことはない(43.8%)」人、新型コロナウイルス感染拡大後も活動回数が「変わらない(51.9%)」人と交流の機会が「変わらない(52.2%)」人で高く、**特に、「80 代以上(58.2%)」の人では、6 割近い。**

(2)「わからない」への注目

以上から、オンラインミーティングツール・YouTube・SNS を使用するための講座への明確な参加の意思を示しているのは２～４割であるが、「わからない」と回答した人にも注目する必要がある。というのも、「参加したい」わけでも「参加したくない」わけでもない理由が、これまで考えたことがない、あるいは、その判断をするための情報がないということが考えられるからである。したがって、こうした人たちが、今後何かのきっかけで「参加する」方向に変化する可能性は十分にある。

そこで、「参加する」と「わからない」と回答した人を「参加可能性がある」人とみなすと、その率は 60.7%となる。

属性別にみると、**「参加可能性がある」人の率は、**「女性(63.9%)」、「70 代以下(50 代以下：73.6%、60 代：60.9%、70 代：63.8%)」の人、「中央公民館(63.6%)」と「きららホール(63.3%)」利用者、「オンラインミーティングツール・YouTube・SNS を使用している(拡大前から：65.2%、拡大後から：76.2%)」人、新型コロナウイルス感染拡大後に活動回数が「減った(65.5%)」人と交流の機会が「減った(64.7%)」人で６割を超え、**特に、「50 代以下(73.6%)」の人とオンラインミーティングツール・YouTube・SNS を「拡大後から使用し始めた(76.2%)」人では、7 割を超えている。**

講座・イベント等参加者編

1．新型コロナウイルス感染拡大後の活動・交流の状況

(1)新型コロナウイルス感染拡大後の活動状況

新型コロナウイルス感染拡大後の活動回数が、感染拡大前よりも「減った」と回答した人の率76.9%であり、４人のうち３人が活動回数が「減った」と回答していた。

属性別にみると、**活動回数が「減った」と回答している人の率は、「女性(81.4%)」、「60 代(82.1%)」と「80 代以上(81.0%)」の人と「きららホール(87.8%)」利用者で高い。**

(2)新型コロナウイルス感染拡大後の交流状況

また、新型コロナウイルス感染拡大後の交流の機会が、感染拡大前よりも「減った」と回答した人の率は 71.3%であり、７割以上の人が交流の機会が「減った」と回答していた。

属性別にみると、**交流の機会が「減った」と回答している人の率は、「女性(77.1%)」、「50 代(78.4%)」の人、「中央公民館(77.7%)」と「きららホール(84.0%)」利用者で高い。**

2．緊急事態宣言による施設閉館時の活動状況と現在の活動状況

(1)緊急事態宣言による施設閉館時の活動状況

緊急事態宣言による施設閉館時の活動状況は、「特に活動はしなかった」人の率が 60.3%でもっとも高く、「講座・イベント等を実施している場所(施設等)を探して、活動を続けていた」人は、12.6%にとどまっていた。

属性別にみると、**「特に活動はしなかった」人の率は、「女性(66.7%)」、「60 代以上(60 代：62.9%、70 代：63.7%、80 代以上：61.4%)」の人、「きららホール(72.8%)」利用者で高い。**また、**「オンライン等で活動に関する情報収集をした」人の率は「40 代以下(24.0%)」の人で高い。**

(2)現在の活動状況

現在の活動状況については、「影響は残っていない」と回答した人の率は 17.4%のみであり、**8 割以上の人が何らかの影響が残っている**と回答している。具体的な影響としては。「講座・イベント等参加の回数が減ったままである」人の率が 34.6%でもっとも高く、次いで「講座・イベント等の中止・延期が続いている(28.2%)」となっていた。

属性別にみると、**「講座・イベント等の中止・延期が続いている」人の率は、「男性(38.8%)」、「50 代以上(50 代：38.6%、60 代：38.1%、70 代：38.7%、80 代以上：38.6%)」の人、「きららホール(39.6%)」利用者で高い。**また、**「講座・イベント等のオンライン化が進んだ」と回答した人の率は、「40 代以下(24.0%)」の人で高い。**

3．新型コロナ感染拡大の中、活動に関して感じたこと

新型コロナ感染拡大の中、活動に関して感じたことについて尋ねてみたところ、「講座・イベント等が再開されることが待ち遠しかった」と回答した人の率が 70.3%でもっとも高く、次いで「講座・

イベント等で『人とつながっている』ことを再認識した(30.3%)」となっていた。

属性別にみると、**「講座・イベント等が再開されることが待ち遠しかった」と回答した人の率は、「40 代以下(76.0%)」と「60 代(75.3%)」の人、「きららホール(84.2%)」利用者で高い。**また**「活動で『人とつながっている』ことを再認識した」と回答した人の率は、「女性(36.6%)」、「50 代(36.4%)」の人、そして「きららホール(36.8%)」利用者で高い。**

その他、**「講座・イベント等への参加が、自分の生きがいであると感じた」では「80 代以上(25.0%)」の人の、「講座・イベント等が再開され、以前より参加への興味が増した」では「50 代(27.3%)」の人の率が高くなっていた。**

4．オンラインミーティングツール・YouTube・SNS の活用

(1)オンラインミーティングツール・YouTube・SNS の使用状況

オンラインミーティングツール・YouTube・SNS の使用状況は、「新型コロナウイルス感染拡大前から使用していた」と回答した人の率は 21.7%、「新型コロナウイルス感染拡大後から使用を始めた」と回答した人の率は 17.2%となっており、現在、「使用している」人の率は 38.9%であった。

属性別にみると、**現在「使用してる」と回答した人の率は、「40 代以下(84.0%)」の人で高い。一方、「使用したことはない」と回答した人の率は、「80 代以上(73.7%)」の人で高い。**

(2)オンラインミーティングツール・YouTube・SNS の使用目的

オンラインミーティングツール・YouTube・SNS の使用目的は、「参加者間の連絡・交流に使う」と回答した人の率が、48.6%でもっとも高く、次いで「活動に関係する情報を得るのに使う(44.9%)」となっていた。

属性別にみると、**「参加者間の連絡・交流に使う」と回答した人の率は「40 代以下(66.7%)」の人と「中央公民館(64.3%)」利用者で高い。**また**「活動に関係する情報を得るのに使う」と回答した人の率は、「50 代(63.6%)」の人で高い。**

(3)オンラインミーティングツール・YouTube・SNS を使用しない理由

オンラインミーティングツール・YouTube・SNS を使用しない理由は、「操作がわからない」と回答した人の率が、41.9%でもっとも高く、次いで「関心がない(35.0%)」となっていた。

属性別にみると、**「操作がわからない」と回答した人の率は、「60 代(50.0%)」の人、と「中央公民館(56.3%)」利用者で高く、「関心がない」と回答した人の率は、「男性(40.0%)」、「50 代(403.0%)」の人、「ラスタホール(39.5%)」と「きららホール(40.3%)」利用者で高い。**

5．オンラインミーティングツール・YouTube・SNS を使用するための講座への参加

(1)講座への参加意思

オンラインミーティングツール・YouTube・SNS を使用するための講座への参加の有無については、「参加する」と回答した人の率が 33.7%であったのに対して、「参加しない」と回答した人の率は 27.0%となっており、「参加する」人の率が、「参加しない」人の率を上回っている。

属性別にみると、**「参加する」と回答した人の率は、**「男性(40.9%)」、「中央公民館(45.3%)」

利用者、「新型コロナウイルス感染拡大前から使用していた(59.1%)」人で高い。**特に、「新型コロナウイルス感染拡大前から使用していた」人では6割近くが「参加する」と回答している。**一方、**「参加しない」と回答した人の率は、「80 代以上(42.9%)」の人、「ラスタホール(36.4%)」利用者、オンラインミーティングツール・YouTube・SNS を「使用したことはない(34.3%)」人で高い。**

(2)「わからない」への注目

オンラインミーティングツール・YouTube・SNS を使用するための講座への明確な参加の意思を示しているのは3割程度であるが、「わからない」と回答した人にも注目する必要がある。というのも、「参加したい」わけでも「参加したくない」わけでもない理由が、これまで考えたことがない、あるいは、その判断をするための情報がないということが考えられるからである。したがって、こうした人たちが、今後何かのきっかけで「参加する」方向に変化する可能性は十分にある。

そこで、「参加する」と「わからない」と回答した人を「参加可能性がある」人とみなすと、その率は 72.9%となる。

属性別にみると、**「参加可能性がある」人の率は、「60 代(81.1%)」の人、「中央公民館(83.8%)」利用者、オンラインミーティングツール・YouTube・SNS を「新型コロナウイルス感染拡大前から使用していた(85.9%)」人で高く、8割を超えている。**

6．オンライン講座への参加

(1)講座への参加意思

オンライン講座への参加の有無については、「参加する」と回答した人の率は 34.4%であったのに対して、「参加しない」と回答した人の率は 23.3%となっており、「参加する」人の率が、「参加しない」人の率を上回っている。

属性別にみると、**「参加する」と回答した人の率は、**「40 代以下(52.0%)の人、「中央公民館(49.6%)」利用者、オンラインミーティングツール・YouTube・SNS を「新型コロナウイルス感染拡大前から使用していた(68.5%)」人で高い。**特に、「新型コロナウイルス感染拡大前から使用していた」人では7割近くが「参加する」と回答している。**

一方、**「参加しない」と回答した人の率は、「80 代以上(45.7%)」の人で高い。**

(2)「わからない」への注目

オンライン講座への参加についても、「参加可能性がある」人についてみておく。「参加する」と「わからない」と回答した人を「参加可能性がある」人とみなすと、その率は 76.7%となる。

属性別にみると、**「参加可能性がある」人の率は、「60 代以下(40 代以下：84.0%、50 代：83.7%、60 代：82.6%)」の人、「中央公民館(85.1%)」と「きららホール(80.1%)」利用者、オンラインミーティングツール・YouTube・SNS を「使用している(拡大前から：94.5%、拡大後から：91.6%)」人で高く、8割を超えている。**

Ⅳ　調査結果から見えた社会教育・生涯学習活動のこれから

1)社会教育・生涯学習活動は「生きがい」・・・そして「人とのつながり」

新型コロナウイルス感染拡大に伴う活動自粛により、活動者は、活動が「生きがい」「生活の一部」であることに気付き、また、活動における仲間との交流は活動へのモチベーションを高めるだけでなく、心身の健康にも良い効果をもたらしていることを再認識しました。

これらは、私たち、社会教育委員にとって大変うれしい気付きであり、人は、社会教育・生涯学習活動により、仲間と出会い、人とつながることで、心身の健康を獲得し、より一層の活動への意欲を高め、活動の深まりへとつながっていきます。社会教育・生涯学習活動は、「『人と人とのつながり』を育んでいる。」ということが今回の調査で分かったとても大切なことでした。

活動への制限がある中でも、人とのつながりの再認識や、さらなる興味や生きがいとしての実感、オンライン活用などの前向きな行動など、社会教育・生涯学習活動の重要性を感じることができました。また、これまで社会教育施設が推進してきた活動への支援は、市民ニーズに沿い、また定着していることからも、引き続き行われる必要があると思います。

活動は「生きがい」

当たり前のことが当たり前にできなくなった時、自分にとっての活動の存在価値を改めて感じたのでは？

活動自粛期間を経ることで、活動再開後は以前より興味を持って講座やイベントに参加している。

活動の再開が待ち遠しかったのは当然のこと。

活動者は、前向きに色々なことを学びたいと願っているように思う。

三密を避けて活動再開しているグループも多く、人との交流が生きがいとなっており、健康で活動できることに喜びを感じている。

活動の再開＝仲間との再会

仲間と一緒に活動をすることで、楽しさ・やる気は倍増し、みんなが「笑顔」になれる。

活動再開が待ち遠しい＝人と会えることが待ち遠しい。

スポーツ活動においては、やはり、同じ場所で一緒に活動を楽しみたいという思いが強い。

活動の再開を待ち望んでいた活動者は、活動そのものだけでなく、一緒に活動する仲間との再会も楽しみしていた。

人とのつながり

社会教育施設の利用者は、前向きで相互理解の考えが高い人が多く、健康を保つためにも、文化的活動や人とのかかわりが重要であると再認識した。

施設閉館時でも工夫しながら活動を継続していたことから、「活動することの楽しさ」「活動によるつながり」を大事にしたい気持ちの現れであると感じる。

人とのつながりを再認識した人が講座参加者よりグループ活動者に多かったことから、社会教育においてグループ活動の重要性を感じた。

「人と人のつながり」という点においては、どの世代においても感じていることから、社会教育の原点であると思う。

（伊丹市社会教育委員の討議より抜粋）

2)「活動」や「つながり」におけるオンラインミーティングツールの現状について

コロナ禍において、あらゆる場面でオンラインミーティングツール等が新たな手法として取り入れられるようになりました。

アンケート調査結果からも、社会教育・生涯学習活動において、特に５０代以下の活動者は、オンラインミーティングツールや SNS 等を活用し、活動を継続したり、情報収集を行ったり、仲間とつながったりしていることがわかりました。

しかし、社会教育施設の活動者の多くは高齢者で、オンラインミーティングツールへの興味関心が低いことや、活用したくてもやり方がわからない方が多くいることが分かりました。まずは、オンラインミーティングツール等の利点や課題を知ることが必要です。

オンラインミーティングツール活用における利点

- コロナ対策だけでなく、遠隔地の人と時間の共有や、移動時間の節約ができる。
- 活動、交流、情報収集にも有効である。
- 人と人が「つながる」ことを簡易にする道具である。
- 活動の幅を広げることができる。
- コロナ禍でのデジタル化は、活動において、新しいコミュニケーションツールへの挑戦を後押ししている。
- オンラインであれば、機会があれば講座を受講する可能性のある活動者が増える。
- 幅広い世代で、会員間の連絡・交流や情報収集に活用できる。

オンラインミーティングツール活用における課題

- 対面に勝るものはなく、対面ならではの空気感の共有ができず、限界を感じる。
- コロナ禍前からの利用者は受け入れやすいが、未使用者にとっては、対面での交流ができない点では、受け入れ難い。
- 操作ができることが前提となるため、オンライン環境を準備する必要がある。
- 各自でスタートするとなると、特に高齢者にとってはハードルが高い。
- オンラインの知識を得たくても、レベルの範囲が広く、各個人に適した教材や講習を探すのが困難である。

（伊丹市社会教育委員の討議より抜粋）

3)オンラインミーティングツールの活用に向けて

今後、社会教育・生涯学習活動において、あらゆる世代の利用者がオンラインミーティングツール等を活用した活動や仲間とのつながりを育める環境づくりが必要だと考えます。また、オンラインミーティング―ル等を活用できる社会教育施設の環境整備や人材育成も必要です。

ただ、オンラインミーティングツール等を「使える・使えない」が、活動者のつながり格差を生む可能性があります。社会教育施設においては、特に高齢者を対象とした、いつでも気軽に学べるわかりやすいオンラインミーティングツール活用講座が定期的に開設されるなど、必要を感じたときに身近で学べる環境づくりが進むことを望みます。

オンラインミーティングツール活用に向けて考えられる具体策

- 初心者への正しい使い方や理解の普及・啓発
- 社会教育施設のフリーWi-Fi 等の web 環境整備
- オンラインツールを活用できる人材育成(活動者、行政・施設職員ともに)
- オンラインでの活動に興味を持ってもらうきっかけづくりがいるのでは？(オンライン活用者の口コミや初心者でも興味を持ちやすい講座企画など)
- 積極的なオンラインツールの活用！
  交流・信頼関係がある仲間同士がオンラインツールで深みのあるやりとりを意識して積極的に活用していくことで、オンラインの活用術についても深めることができる。
- すでにオンライン講座に積極的に参加している活動者と協働(教え合う)での講座企画・実施。
- これまでのチラシ配布などの手法に加えたデジタル化の普及など、多様性を持った運営により、活動のしやすさへとつなげる。
- レベル別(初心者編、上級者編など)や活動形態別(グループ活動者、講座参加活動者など)のオンライン講座の開催・企画。
- 対面式かオンライン式か選択できる講座の実施！

(伊丹市社会教育委員の討議より抜粋)

4)まとめ

今回の調査において、人にとって「人とのつながり」は、生きがいを持ち、健康に楽しく生きるうえにおいて、とても大切なことであるとわかりました。

また、私たちは、人と人がつながることにおいて、「対面が大切」と考えていましたが、オンラインミーティングツールは人と人をつなげることができる新しいコミュニケーションツールとして活用できることに気付きました。対面での活動や交流が困難な時に、オンラインミーティングツールを新しいつながり方の一つとして活用することにより、一人でも多くの人が「人とつながる」ことができ、これまで以上に社会教育・生涯学習活動が豊かなものになることを期待します。

Ⅴ　おわりに

やっぱり「社会教育」ってとても大切

報告書を最後までお読みくださり、ありがとうございます。アンケート調査により、活動は多くの方にとって「生きがい」であり、仲間との交流により意欲が高まり、さらに心身の健康にもつながることを、我々は再確認できました。恐らく、調査にご協力くださった施設利用者の方々も、アンケートに記入する過程で、自分にとって活動がこんなにも大切であることに、気付かれたと思います。

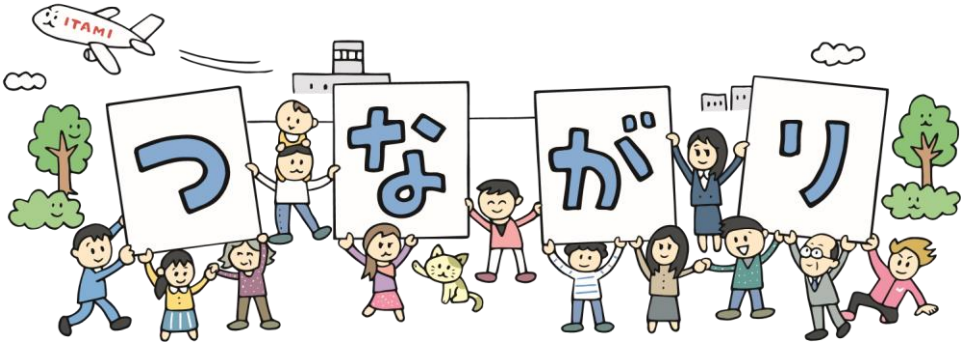
多くの施設利用者は「社会教育」という単語を使わず(単語を知らず)活動していますが、「社会教育」は、生きがいと心身の健康をもたらす素晴らしいものであり、一人ひとりの生活が豊かになるばかりではなく、人とのつながりを深め、自分たちが暮らすまちを豊かにします。社会教育による「人づくり」が「まちづくり」へとつながっていくのです。

私たち「伊丹市社会教育委員の会」は、提言の提出やフォーラムの開催、他市町との交流・協働の中で、学んだことを言葉にし、伝え、行動し、さらに学ぶということを繰り返してきました。ありがたいことに、行動する「伊丹市社会教育委員の会」は県内外からも着目され、外部から評価されることで、さらに我々のモチベーションは上がっています。

今回、「伊丹市社会教育委員の会」の振り返りと、アンケート調査によって、気付いたことのひとつが「しっかりと言葉にすることの効果と重要性」です。一人ひとりが豊かな生活を送るためにも、伊丹が愛でいっぱいのまちになるためにも、「社会教育って笑顔になれる」「社会教育って心身の健康につながる」「やっぱり『社会教育』ってとても大切」と言い続けていきたいと思います。

最後になりましたが、アンケート調査にご協力いただきました施設利用者の方々、施設の方々に、心からお礼を申し上げます。

さらに豊かな伊丹のまちのために、これからも一緒に楽しんで活動していきましょう！



１　令和２・３年度　伊丹市社会教育委員の会審議経過

	回	開催日	内　容
令和２年度	第１回	令和２年 １０月１４日(水)	○　委嘱状の交付 ○　委員・職員紹介 ○　研究テーマの設定 ○　講義
	第２回	令和２年 １２月１８日(金)	○　今期テーマについて社会教育委員による討議
	第３回	令和３年 ２月３日(水)	○　今期テーマについて社会教育委員による討議
	第４回	令和３年 ３月２４日(水)	○ 今期テーマについて社会教育委員による討議
令和３年度	第５回	令和３年 ６月３日(木)	○ 今期テーマについて社会教育委員による討議
	第６回	令和３年 ８月２５日(水)	○ 今期テーマについて社会教育委員による討議
	第７回	令和３年 １０月２０日(水)	○ 今期テーマについて社会教育委員による討議
	第８回	令和３年 １２月２２日(水)	○ 今期テーマについて社会教育委員による討議(最終)
		令和４年 ２月１２日(土)	○ フォーラム

令和４年２月３日　　【報告書】の提出

２　令和２・３年度　伊丹市社会教育委員名簿

選出区分	氏　名	所　属
学校教育関係者	臼井　久美	伊丹市立小・特別支援学校校長会(～R3.4.22)
	林　隆浩	伊丹市立小・特別支援学校校長会(R3.4.23～)
社会教育関係者	寺田　晃	伊丹市ＰＴＡ連合会　事務局長
	○大路　周宏	伊丹市ＰＴＡ連合会　顧問
	市川　伊久雄	伊丹市自治会連合会　副会長
	河本　美智子	伊丹市スポーツ推進委員会　副会長
	青木　昌子	公民館事業推進委員会　会長
	◎波多江　みゆき	NPO 法人あなたらしくをサポート　副代表理事
家庭教育の向上に資する活動を行う者	板野　彰彦	元家庭教育推進連携支援委員会　委員
学識経験者	神部　純一	滋賀大学　教授
	釜　慶子	伊丹市人権教育指導員
市民公募	横田　詞輝	市民
	益田　善行	市民

◎会長　○副会長

３　調査票(グループ等活動者編、講座・イベント等参加者編)

グループ等活動者用

新型コロナウイルスが《社会教育・生涯学習活動》に与えた影響に関するアンケート調査

新型コロナウイルスが、市内の社会教育施設（中央公民館、ラスタホール、きららホール）を利用する皆様の活動に、どのような影響や変化を与えたのか実態を把握するため、アンケート調査を行うことになりました。今後の活動の参考とするため、ご協力をお願いいたします。

≪アンケート記入についてのお願い≫

1．設問によって○をつける数が異なりますのでご注意ください。

2．令和３年６月末までに利用施設へ提出をお願いします。

3．アンケートについてのお問い合わせは下記までお願いします。

伊丹市社会教育委員の会

《問合せ》伊丹市教育委員会事務局生涯学習部社会教育課

TEL　072-764-7814

【あなたの当施設の利用状況についてお聞きします】

問１　あなたの所属しているグループが、主に利用している施設はどれですか（○を１つ）
　１．中央公民館　　２．ラスタホール　　３．きららホール

問２　あなたの主なグループ活動の内容についてお聞きします。（○を１つ）
　１．囲碁・将棋・麻雀　　２．音楽（カラオケ・合唱・楽器演奏等）
　３．スポーツ・舞踊・ダンス（種目：　　）　　４．絵画・手工芸・文芸等
　５．子育て　　６．その他（　　）

以下、問２でお答えの活動についてお聞きします。

問３　新型コロナウイルス感染拡大前（昨年３月以前）、あなたのグループはどのぐらいの頻度で施設を利用していましたか。（○を１つ）
　１．週２～３回程度　　２．週１回程度　　３．月２～３回程度
　４．月１回程度　　５．年数回程度

問４　新型コロナウイルス感染拡大後（昨年３月以降）、あなたのグループの活動回数はどうなりましたか。（○を１つ）
　１．減った　　２．変わらない　　３．増えた

問５　新型コロナウイルス感染拡大後（昨年３月以降）、あなたのグループ活動者間の交流の機会はどうなりましたか。（○を１つ）
　１．減った　　２．変わらない　　３．増えた

問６　昨年４～５月の緊急事態宣言による施設閉館時、あなたのグループ活動はどうなりましたか（あてはまるものすべてに○）
　１．活動を中止した
　２．オンラインミーティングツールやＳＮＳを使って、実施した
　３．場所を変更して、実施した
　４．活動の回数が減った
　５．活動の回数が増えた
　６．活動者間の交流の機会が減った
　７．活動者間の交流の機会が増えた
　８．その他（　　）

問７　現在、あなたのグループの活動は、どのような状況ですか（あてはまるものすべてに○）
　１．活動を中止したままである
　２．活動を再開した
　３．活動や運営のオンライン化が進んだ
　４．活動者間の交流の機会が減ったままである
　５．活動の回数が減ったままである
　６．その他（　　）

問８　新型コロナウイルス感染拡大により、社会教育・生涯学習活動について、次のように感じることはありましたか。（あてはまるものすべてに○）
　１．活動が再開されることが待ち遠しかった
　２．活動で「人とつながっている」ことを再認識した
　３．活動を再開して、活動に対して興味が増した
　４．活動は、自分の生きがいであると感じた
　５．活動が再開されるまでは、元気が出なかった
　６．活動者との交流にＳＮＳが必要だと感じた
　７．その他（　　）

【オンラインミーティングツール・YouTube・SNS の活用についてお聞きします】

※オンラインミーティングツール
　インターネットを介して、音声と映像を共有し、リアルタイムで会話をすること（Zoom 等）
※SNS（ｿｰｼｬﾙﾈｯﾄﾜｰｸｻｰﾋﾞｽ）：LINE や Facebook 等のインターネット上で交流するサービスのこと
※YouTube：インターネットを介して動画の共有を行うウェブサイト

問9　あなたはオンラインミーティングツール・YouTube・SNS を使用したことがありますか。
（○を１つ）
1．新型コロナウイルス感染拡大前（昨年３月以前）から使用していた
2．新型コロナウイルス感染拡大後（昨年３月以後）から使用を始めた
3．使用したことはない

問 10　**問9で 1．か 2．に○をつけた方にお聞きします。**オンラインミーティングツール・YouTube・SNS をどのように使っていますか。（あてはまるものすべてに○）
1．会員間の連絡・交流に使う　　2．活動に関係する情報を得るのに使う
3．それ以外で使っている（　　）

問 11　**問9で 3．○をつけた方にお聞きします。**使用したことがない理由はなんですか。
（あてはまるものすべてに○）
1．パソコンやスマートフォンを持っていない　2．操作がわからない　3．関心がない
4．その他（　　）

問 12 あなたは、オンラインミーティングツール・YouTube・SNS の活用の仕方についての講座が開催されたら参加しますか。（○を１つ）
1．参加する　2．参加しない　3．わからない

【最後に、あなた自身についてお聞きします】

問 13　あなたの性別についてお聞きします。（○を１つ）
1．男性　2．女性　3．無回答

問 14　あなたの年代についてお聞きします。（○を１つ）
1．10 代　2．20 代　3．30 代　4．40 代
5．50 代　6．60 代　7．70 代　8．80 代以上

問 15　今後、あなたのグループが活動を続けていく上で、気になることや課題だと思うことなどを自由にお書きください。

講座・イベント等参加者

新型コロナウイルスが《社会教育・生涯学習活動》に与えた影響に関するアンケート調査

新型コロナウイルスが、市内の社会教育施設（中央公民館、ラスタホール、きららホール）を利用する皆様の活動に、どのような影響や変化を与えたのか実態を把握するため、アンケート調査を行うことになりました。今後の活動の参考とするため、ご協力をお願いいたします。

≪アンケート記入についてのお願い≫

1．　設問によって○をつける数が異なりますのでご注意ください。

2．　アンケートについてのお問い合わせは下記までお願いします。

伊丹市社会教育委員の会

《問合せ》伊丹市教育委員会事務局生涯学習部社会教育課

TEL　072-764-7814

【あなたの当施設の利用状況についてお聞かせください】

問１　あなたが今回利用している施設はどれですか。（○を１つ）
　１．中央公民館　２．ラスタホール　３．きららホール

問２　現在、あなたはどのぐらいの頻度で、講座・イベント等に参加するためこの施設を利用していますか。（○を１つ）

１．週２～３回程度　　２．週１回程度　　３．月２～３回程度
４．　月１回程度　　５．年数回程度　　６．はじめて（問５へ）

問３　新型コロナウイルス感染拡大後（昨年３月以降）、講座・イベント等の参加回数はどうなりましたか。（○を１つ）

１．減った　　２．変わらない　　３．増えた

問４　新型コロナウイルス感染拡大後（昨年３月以降）の講座・イベント等を通じた参加者間の交流の機会はどうなりましたか。（○を１つ）

１．減った　　２．変わらない　　３．増えた

問５　昨年４～５月の緊急事態宣言による施設閉館により、講座・イベント等が開催されなかった期間、あなたはどのような活動を続けていましたか。（あてはまるものすべてに○）

１．講座・イベント等を実施している場所（施設等）を探して、活動を続けていた
２．オンライン等で活動に関する情報収集をした
３．興味関心のあるオンライン配信の講座等に参加した
４．講座・イベント等の知り合いと、交流の機会を持った
５．新たな活動を始めた（活動内容：　　）
６．その他（　　）
７．特に活動はしなかった（その理由：　　）

【あなたの現在の活動状況についてお聞かせください（当施設以外の活動も含めて）】

問６　あなたの現在の活動はどのような状況ですか。（あてはまるものすべてに○）
１．講座・イベント等の中止・延期が続いている
２．講座・イベント等のオンライン化が進んだ
３．講座・イベント等参加者間の交流が減ったままである
４．講座・イベント等参加の回数が減ったままである
５．その他（　　）
６．影響は残っていない

問７　新型コロナウイルス感染拡大により、あなたの活動について、次のように感じたことはありましたか（あてはまるものすべてに○）
１．講座・イベント等が再開されることが待ち遠しかった
２．講座・イベント等で「人とつながっている」ことを再認識した
３．講座・イベント等が再開され、以前より参加への興味が増した
４．講座・イベント等への参加が、自分の生きがいであると感じた
５．講座・イベント等が再開されるまでは、元気が出なかった
６．講座・イベント等参加者の仲間との交流にＳＮＳが必要だと感じた
７．その他（　　）

【オンラインミーティングツール・YouTube・SNS の活用についてお聞きします】

※オンラインミーティングツール
　インターネットを介して、音声と映像を共有し、リアルタイムで会話をすること（Zoom 等）
※SNS（ｿｰｼｬﾙﾈｯﾄﾜｰｸｻｰﾋﾞｽ）：LINE や Facebook 等のインターネット上で交流するサービスのこと
※YouTube：インターネットを介して動画の共有を行うウェブサイト

問８　あなたはオンラインミーティングツール・YouTube・SNS を使用したことがありますか。（○を１つ）
1．新型コロナウイルス感染拡大前（昨年３月以前）から使用していた
2．新型コロナウイルス感染拡大後（昨年３月以後）から使用を始めた
3．使用したことはない

問９　**問８で１か２に○をつけた方にお聞きします。**オンラインミーティングツール・YouTube・SNS をどのように使っていますか。（あてはまるものすべてに○）
1．参加者間の連絡・交流に使う　　2．活動に関係する情報を得るのに使う
3．それ以外で使っている（　　）

問 10　**問８で３に○をつけた方にお聞きします。**使用したことがない理由はなんですか。（あてはまるものすべてに○）
1．パソコンやスマートフォンを持っていない　2．操作がわからない　3．関心がない
4．その他（　　）

問 11 あなたは、オンラインミーティングツール・YouTube・SNS の活用方法についての講座が開催されたら参加しますか。（○を１つ）
1．参加する　2．参加しない　3．わからない

問 12 あなたは、今後、興味のあるオンライン講座（Zoom 等）が開催されたら参加しますか。（○を１つ）
1．参加する　2．参加しない　3．わからない

【最後に、あなた自身についてお聞きします】

問 13　あなたの性別についてお聞きします。（○を１つ）
1．男性　2．女性　3．無回答

問 14　あなたの年代についてお聞きします。（○を１つ）
1．10 代　2．20 代　3．30 代　4．40 代
5．50 代　6．60 代　7．70 代　8．80 代以上

問 15　今後、あなたが活動を続けていく上で、気になることや課題だと思うことなどを自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました♡